

## 展 示

### 太宰治からファールまで ～大学図書館のお宝お見せします～

本展示会は「図書館と県民のつどい埼玉2009」に連携・参加して埼玉県大学・短期大学図書館協議会(SALA)が行ったものである。大学図書館の対象分野の広さと奥深さを感じていただけたらと企画したものであり、SALA メンバー館の内、9つの図書館の「お宝」を紹介した。新型インフルエンザへの警戒の中ではあったが太宰治が生誕100年に当たるなどの話題性も手伝って展示会は終日盛況、多方面から多くの反響が寄せられた。

(跡見学園女子大学)

跡見学園女子大学は明治大正期の文豪森鷗外について“森鷗外と子どもたち”と題し、家庭人としての鷗外に焦点をあてた展示を行った。

子どもたちや親族が残した随筆は「父」「兄」



としての鷗外の姿を伝える興味深いものであり、展示し

た『父親としての森鷗外』『父の帽子』『晩年の父』『森鷗外の系族』は数多い随筆群のなかでも代表的な資料である。このほか、鷗外の『舞姫』『北条霞亭』『自紀材料』(複製自筆原稿展示)により、鷗外が書いた“文字”も見ていただいた。

また、この機会に“鷗外と跡見女学校”との関係が伺える資料「鷗外が妻に宛てた葉書」(葉書の絵柄は跡見学園学祖、跡見花蹊が画

したもの-複製パネル展示)や、鷗外の『盛儀私記』が掲載されている跡見校友会誌『汲泉』第45号(大正4年12月発行)をご紹介します、来場者の方々にご覧いただいた。

(国立女性教育会館)

女性教育情報センターでは、1977年の開館以来、全国紙・地方紙に掲載された、男女共同参画及び女性・家庭・家族に関する新聞記事の切り抜きを収集・保存している。約26万件のコレクションの中から、3つのテーマで選んだ記事を出品した。

(1)女性第1号者…全国初の女性助役など「女性初」として活躍した人材に関する記事。

(2)「国連婦人の十年」コペンハーゲン会議、ナイロビ世界会議…1972年の第27回国連総会において1975年を「国際婦人年」とする



ことが決定された。また、第30回国連総会において1976年

～1985年を「国連婦人の十年」とすることが宣言され、1982年にコペンハーゲンで「国連婦人の十年中間年世界会議」、最終年にあたる1985年にナイロビで「国連婦人の十年世界会議」が開かれた。これらは世界的な男女共同参画の推進の上で画期となった会議であり、日本国内にも1986年の男女雇用機会均等法施行など、大きな影響をもたらした。

(3)展示会直前の全国紙記事(2009.11.10-11.25)…現在は、全国紙5紙、地方紙43紙を採録対象として収集に努めている。

当館所蔵の新聞切り抜き記事の「記事見出し、記事中の人名、新聞名、日付、キーワード」は「文献情報データベース」(<http://winet.nwec.jp/>)を通じて、全てイン

ターネットに無料公開されている。

(埼玉大学)

埼玉大学の展示は全国的に有名となった埼玉大学図書館所蔵の「フェアブルコレクション」と今年度埼玉大学図書館内に開設された「官立浦和高等学校記念資料室」のオープニング記念展示として当資料室からは当時読まれていたであろう旧制高等学校の学生たちが愛唱していたデカンショ節なる歌の三哲学者、デカルト、カント、ショーペンハウエルの著作物・関係著作物群の2つ。



埼玉での展示ということもあり「フェアブルコレク

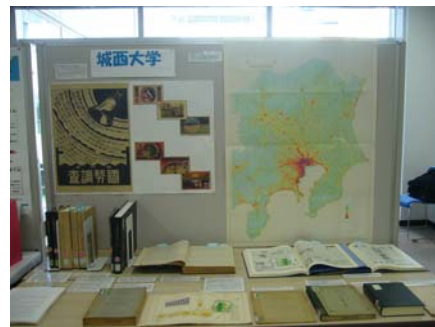
ション」は特別に展示ケースから出してその一点一葉、全てをご覧いただいた。

(城西大学)

城西大学は「国勢調査の歴史」と題し、第1回国勢調査報告書をはじめ、国勢調査以前の統計資料や記念的調査の報告書を展示した。第1回国勢調査は、大正9年10月1日におこなわれた。それ以前の明治32年や大正2年にも人口調査がおこなわれ、それらの調査報告書が基礎となり第1回の調査がおこなわれた。その後、調査はだんだん詳しく正確になっていき、地方分査、産業や職業の区分なども調査対象となった。戦後も調査がおこなわれ、平成17年の調査では、総人口が127,767,994人であることが確定した。「国勢調査の歴史」では、そうした記念的調査の報告書を見ていただき、国勢調査の歴史を理解していただいた。

おもな展示資料は「巴奈馬太平洋萬國博覧会

出品 日本帝國人口靜態及人口動態統計描畫圖並該描畫圖ノ基ヅケル統計表(内閣統計局編纂 大正四年三月臨時刊行)、植民地支配の基礎資料である「第一回臺灣國勢調査(第三次臨時臺灣戸口調査 要覽表)」(臺灣總督官房臨時國勢調査部 大正十一年刊行)、当時名誉職であった第1回国勢調査員の名簿である



「日本国勢調査記念録」など。見学者の方の多くは、

第1回国勢調査書や明治時代に刊行された日本帝國人口統計に興味をもたれ、ご自身の出身地名の変遷や人口数の推移などを熱心にご覧になった。

大学の財産である貴重な統計資料を多くの方にご覧いただき、統計数字の頭すおもしろさを知っていただいた有意義な機会となった。

(女子栄養大学)

女子栄養大学図書館は、栄養学を中心に医学分野、食文化や食育に係わる資料を収集している。今回は創設者香川綾の精神を引き継ぐ



教員・学生の研究成果と、図書館所蔵の食育関連の資料を出展した。

### 【展示資料】

・「四つの食品群」における実証的食品構成の確立と食教育への展開 【研究成果】

・「食育」に関する博士論文・修士論文・卒業研究 28点

・女子栄養大学紀要 5冊

・「わくわく絵本シリーズ 3冊」

・「五訂増補食品成分表」

・「食品80キロカロリーミニガイド」

・「なにをどれだけ食べたらいいの？」

上記4冊 女子栄養大学出版部刊

・「食道楽」報知社出版刊

・「食育白書」時事画報社刊

本学発行「食は生命なり」や『《四群点数法》のすすめー健康さわやかカード』等の配布も行い、展示資料を見ながら、来場された方々と“食事”について話すことによりその方たちの家族への思い、心遣いを聞くことができ、有意義だった。小さなお子さんが一冊の絵本をめくりながら声を出して読み、終わった時にみせた照れくさそうな顔を見られたのも、この催しならではの微笑ましい一瞬だった。

(聖学院大学)

「聖書の出版と翻訳の歴史」に関する資料の展示と、研究成果の普及還元事業である「ひらめき★ときめきサイエンス ー本を解剖するー」の2007・2008年度報告を行った。



書』(複製・一葉)を展示。42行聖書とも言わ

聖書は『ウィクリフ訳』や『ティンダル訳』の他、ドイツ印刷術発明者であるグーテンベルクが刊行した最初の活字印刷聖書の『グーテンベルク聖

れるこの聖書は、当時の活版印刷の技術や余白の美しさを感じ取ることのできるものである。

「ひらめき★ときめきサイエンス」の報告は、実際に参加者の作品を紹介することでプログラムの主旨が明確に伝わり、小中学校の先生方、図書館関係者など多くの方が関心を持たれ、「面白い試み」「参考にしたい」といったお言葉をいただいた。

「お宝」は貴重な資料だけでなく、このような機会でも生まれた交流もまた、図書館にとっての「お宝」であると感じた一日であった。併せて本学の日本文化学科で学んだ相沢沙呼氏の第19回鮎川哲也賞受賞を記念して『午前零時のサンドリヨン』を紹介した。

(文教大学)

文教大学越谷図書館からは越谷キャンパスにある文学部3学科(日本語日本文学科、英米語英米文学科・中国語中国文学科)にちなんだ古典資料を出展した。

日本語日本文学科からは民衆文化が花開いた江戸期の絵入り読み物の草双子や浄瑠璃等の板本、百人一首の板木を展示した。

英米語英米文学科からはイギリスで古くから子供たちに親しまれ、アメリカでマザーグースとして発展し、世界中で歌われているナーザリーライムの絵本を展示した。

中国語中国文学科からは司馬遷の『史記』関係資料を展示した。『史記』本文に中国の代表的注釈三



種を合刻したテキスト(明嘉靖四(1525)年~嘉靖六(1527)年 震澤王延喆刊本)、我が国印刷史上重要な出版物である慶長古活字本※(1596~1615)のテキスト、江戸時代以降多

的注釈三種を合刻したテキスト(明嘉靖四(1525)年~嘉靖六(1527)年 震澤王延喆刊本)、我が国印刷史上重要な出版物である慶長古活字本※(1596~1615)のテキスト、江戸時代以降多



くの日本人が親しんできた和刻本『史記評林』（寛永十三（1636）年 京誓願寺前八尾助左衛門尉覆種徳堂熊氏刊本）など、大変貴重な資料をお見せすることができた。

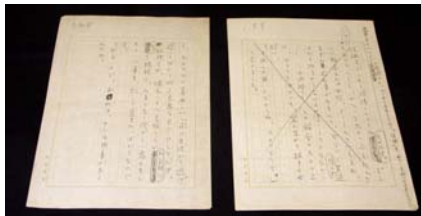
文学部3学科にゆかりのある資料を一部ではあるがご紹介したことで、それぞれの学科が対象としている古典の世界の楽しさを垣間見ていただけたと考えている。

※豊臣秀吉の朝鮮出兵により活字印刷の技術が日本に伝えられたことで誕生した

（立教大学）

展示資料：太宰治『人間失格』自筆草稿・初版本複製など

2009年は太宰治の生誕100年にあたり、たくさんイベントや作品の映画化などが行われた。今回出品した資料は10年ほど前に行った「聖書展」の際に、個人の方から立教大学に寄贈された太宰治の『人間失格』の草稿の一部と思われる2枚の自筆原稿用紙である。



『人間失格』は三鷹や熱海のほか埼玉県大宮

市内（当時）で書き上げられ、太宰は死の前日にも大宮の知人宅を訪れている。太宰が散策した氷川神社周辺など最近の市内の写真も展示した。

また、日本近代文学館が1992年に出版した太宰治の初版本復刻版約30冊を展示し、当時の形態の図書を手にとりて見られるようにした。県内の太宰治愛好家グループも見学を訪れた。



また、田中先生著の小・中高校の地図帳を展示した。

そのほか『回想の太宰治』津島美知子著（人文書院, 1978.5）、『愛は死と共に：山崎富栄の手記』山崎富栄著（石狩書房, 1948）、『太宰治：小説』太田静子著（ハマ書房, 1948.11）など関連した著作物を展示した。

（立正大学）

立正大学図書館は、田中啓爾文庫の中から出展した。

約14,000点ある文庫の中から、絵巻や絵図など見て楽しいものや埼玉に関する蔵書を中心に選んだ。展示の目玉として、『長崎和蘭陀屋舗圖』を正面の壁に掛け、その下に出島内の生活風景を描いた『長崎阿蘭陀船出島絵巻』を机2脚分に広げ、鑑賞し易い



よう工夫した。

江戸時代木版で刷られた町の区分図『江戸切絵図』に興味を示された方が多かった。同じく木版本の一種「ちりめん本」を2点展示し、来場者に直接接触してもらい、和紙でありながら柔らかなその質感を楽しんでいただいた。明治時代に出版された「ちりめん本」は、昔話を題材に外国語で書かれ、日本のみやげ物として外国人に大変好評であったようである。埼玉に関するものとして、3点の木版本『利根川圖志』、『埼玉縣地誌略』、『埼玉縣郷土地誌』を展示。また、田中先生著の小・中高校の地図帳を展示した。